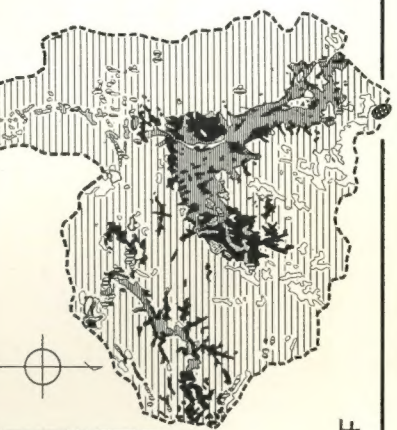
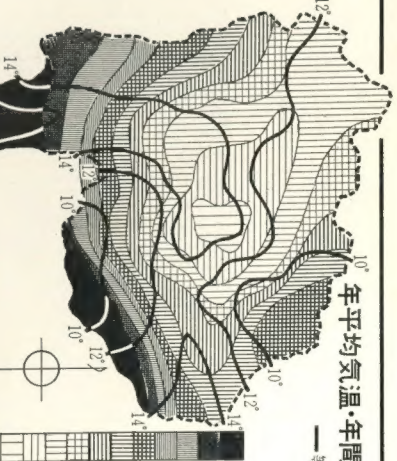
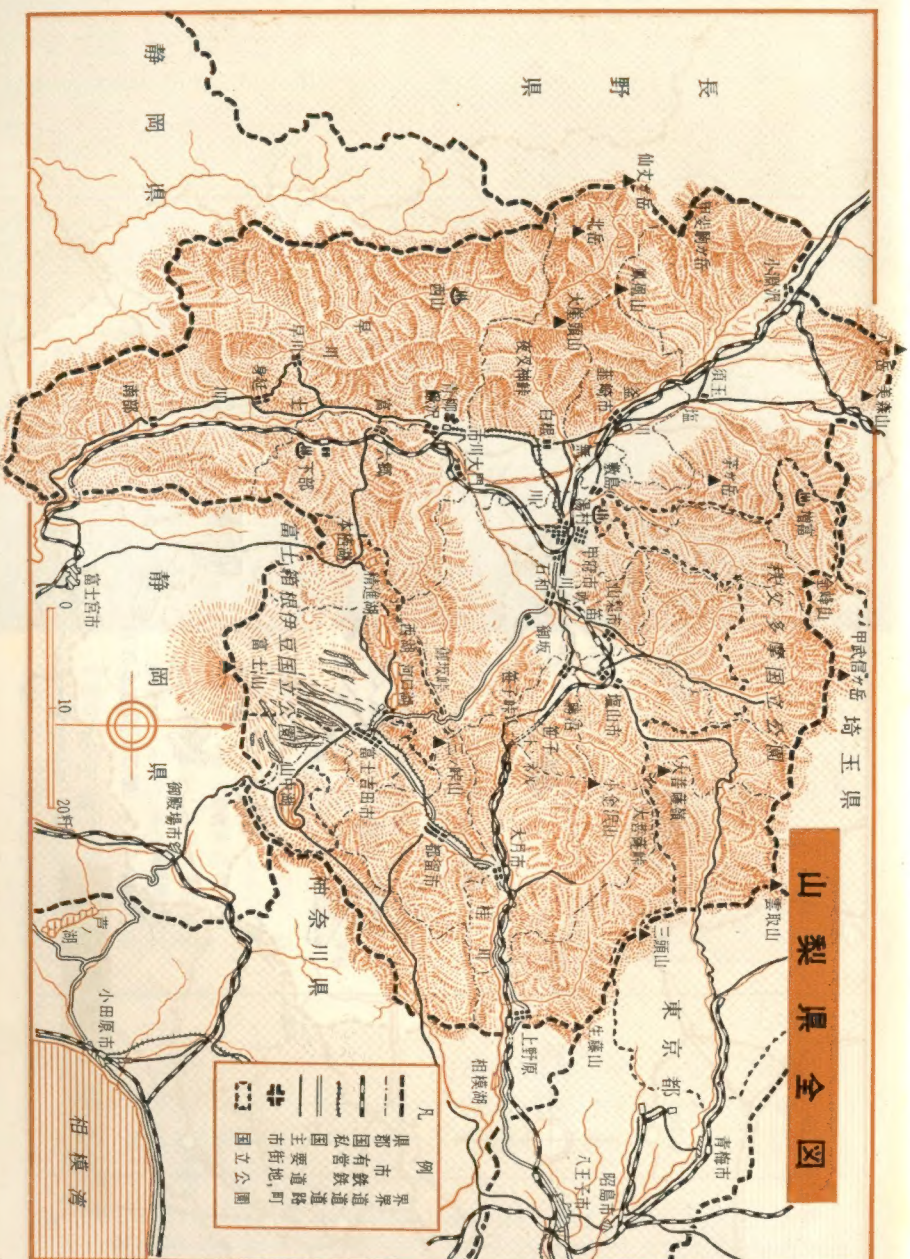
山梨県

―新風土記―

岩波写真文庫　255

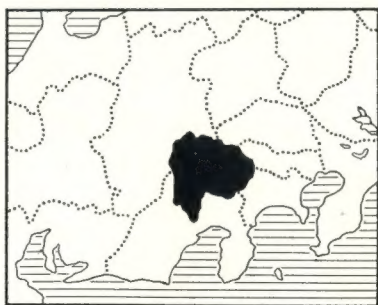
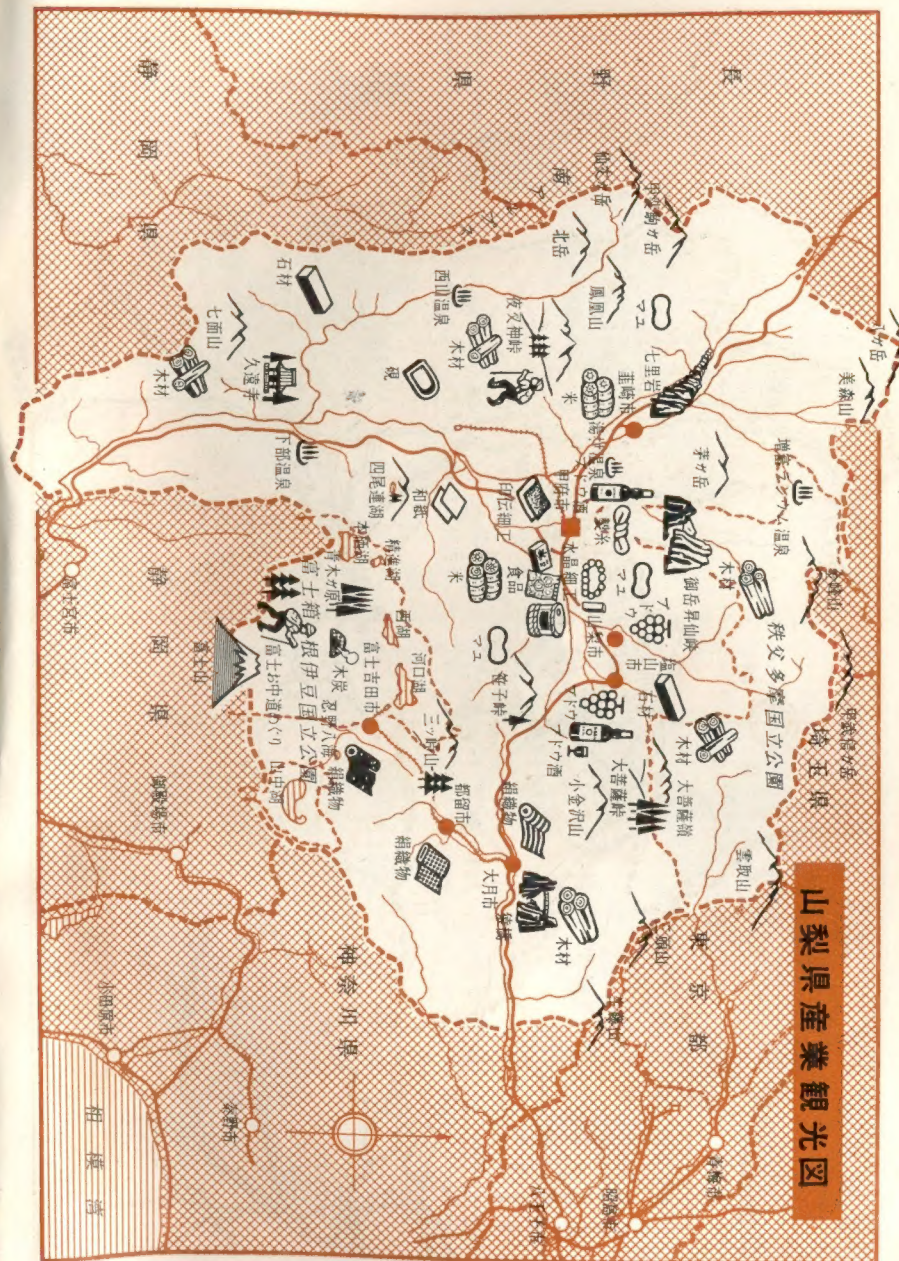
山梨県
255

年平均気温・年間降水量
—等温線
2200粍以上
2000 〃
1800 〃
1700 〃
1600 〃
1500 〃
1400 〃
1300 〃
1200 〃
1100 〃
1100粍以下
10°
12°
14°
15°
土地利用
田
普通畑
桑畑
果樹園
牧場
森林
荒地
地質
沖積層
洪積層
第三系
中生代
古生代
貫入岩
噴出岩
人口密度
900人以上
700 〃
500 〃
300 〃
100 〃
100人以下
山梨県全図
凡例
県界
郡市界
国有鉄道
私営鉄道
国道
主要道路
市街地，町
国立公園
八ヶ岳
美森山
甲武信ヶ岳
埼玉県
金峰山
増富
秩父多摩国立公園
雲取山
小淵沢
須玉
茅ヶ岳
長野県
甲斐駒ヶ岳
塩川
青梅市
大菩薩嶺
三頭山
東京都
仙丈ヶ岳
鳳凰山
金川
韮崎市
数島
山梨市
塩山市
大菩薩峠
小金沢山
昭島市
北岳
湯村
甲府市
笛吹川
生藤山
八王子市
大唯頭山
白根
石和
御坂
笹子トンネル
夜叉神峠
笹子峠
大月市
上野原
桂川
相模湖
市川大門
西山
青柳
鰍沢
御坂峠
三ツ峠山
都留市
西湖
河口湖
精進湖
富士吉田市
早川
本栖湖
下部
神奈川県
富士箱根伊豆国立公園
山中湖
身延
富士山
静岡県
御殿場市
南部
小田原市
富士宮市
芦ノ湖
相模湾
0
10
20粁

岩波写真文庫　255　山梨県　—新風土記—

編集　岩波書店編集部　名取洋之助
写真　山梨県　岩波映画製作所

夏の山中湖畔

「山々の男ぶりみよ甲斐の秋」とは高浜虚子の句だが、山梨県は、かつて甲斐(峡)と呼ばれたように、山に挟まれた盆地の国である。他国に通う路はすべて険しい峠になっているので、奈良時代から孤立をまもりつづけて来た。古く養蚕と機業で知られたが、明治になって中央線が開通してからは東京との関係が深くなり、ブドウをはじめ果樹や園芸作物の栽培が盛んになった。富士五湖、昇仙峡等を訪れる観光客も京浜方面の人が多い。

目　次

定価100円　1958年2月25日発行 © 発行者　岩波雄二郎　印刷者　米屋勇　印刷所　東京都港区芝浦2ノ1
半七写真印刷工業株式会社　製本所　永井製本所　発行所　東京都千代田区神田一ツ橋2ノ3　株式会社岩波書店

山梨県産業観光図

山梨県の総面積は四千四百六十五平方粁で全国三十二位。広い県ではない。そこへ、三千七百七十六米の富士山が、広大な裾をひき、五湖をたたえ、さらに県の四周には、北岳、間ノ岳、仙丈ヶ岳、駒ヶ岳、八ヶ岳、甲武信ヶ岳、大菩薩嶺など、二千米以上の山々が屏風のようにそびえている。住民は古くから、中央の甲府盆地とその周辺部のほか、桂川の流域を中心とする郡内地方、富士五湖周辺を中心とする岳麓地方などに集中して村落をつくった。それも多くが平坦地ではなく、あるいは台地であり、あるいは裾野であり、あるいは扇状地であった。人口は約八十二万で全国四十三位。うち農家人口は約五十万。農業県といわれながら、農家の平均経営面積は、わずか五反にすぎない。千米をこえる高地に見事な水田をひらいた例もあるが、昔から名物のブドウ、桃、養蚕、甲斐絹と商品性の高いものに頼らねば維持できなかったこの県の経済生活は、すべてこの山国の特殊性にもとづいている。

御坂山脈上空より富士をみる．眼下に河口湖

富士五合目から北西を望む．御坂山脈の向うに釜無川上流，八ヶ岳もみえる

岳麓地方　何回もくりかえされた富士山の噴火は、四十粁の遠方まで溶岩の帯を流した。五湖（東から山中、河口、西、精進、本栖）も噴火の際に溶岩流が川をせきとめて出来たもので、富士山腹と御坂山脈との間に弧をえがいて並んでいる。裾野にはひろい複合扇状地が発達し、灌漑の発達とともに、村落がこの上に点々とふえていった。しかし、火山の山麓に特有な砂礫質の荒地が大部分を占めるので、米の生産は少く、農村では果樹園や山林からの収入、それにトウモロコシなどに頼り、五湖めぐりや富士登山の観光客の落す金に多くの期待を寄せている。五湖のうち山中湖は別荘地として、河口湖は富士登山口としてはやくからひらけた。不便だった交通も、大正十五年の富士山麓電鉄の開通、さらに戦後のバス網の飛躍的な拡充によって解決に向った。その中心地、富士吉田市は人口四万弱。

五合目からみた富士吉田市街．背後に三ッ峠山

三ッ峠山から富士吉田市北方の山峡部をみる．遠くに山中湖

五合目からみた河口湖．背後は御坂山脈

本栖湖．右手に溶岩流の先端がみえる

山麓は実弾射撃場

河口湖付近．商人が多く豊かな農村

富士吉田市の中心街．浅間神社の鳥居越しに富士

山中湖と河口湖がはやくから観光地として知られたのに対して，西側の三湖は観光地としての開発が比較的おくれ，かえって山麓の自然を保った．農村の生活も，静岡県に近い地区ではトウモロコシや炭焼きにたより，生活は苦しいが，河口湖周辺部は地味も比較的肥えているうえに，観光客の落す金もあり，豊かな家が多い．冬季に行商人として稼ぎに出る者もある．富士吉田市は浅間神社の門前町として開けたところで，ここの火祭りは奇祭として知られる．

火祭りの準備．富士吉田

精進湖のさかさ富士．手前の山は大室山，寄生火山のひとつ

紅葉台からみた山麓の開拓地．トウモロコシ畑が多い

山中湖．砂浜がひろく水浴客の多いのが特色

河口湖南畔．旅館が多く，ゆかた姿が目立つ

ローソクを手に氷穴探勝

富士箱根伊豆国立公園(昭和11年指定)は三県にまたがる広大な地域だが，その半分は山梨県に属する．山麓の雄大な景観をはじめ樹海や高山植物の群落，溶岩流の残した洞穴など，科学的にも興味あるものが多い．山梨県側，富士五湖地方を訪れる観光客は年間2百万に近く，その落す金は10億円にも達する．東京方面の客が大半で国鉄が乗入れている富士山麓電鉄を利用するものが多いが，御殿場方面からバスで来る人もある．夏のキャンプ，冬のスキー，スケートと客足の絶える季節はない．近年5合目までバスが開通したので，富士登山の客も非常に増加した．

山中湖のキャンプ場で

お中道の散歩道．バスの開通で誰でも楽にのぼれる

河口湖は庶民的な行楽地．シーズンには観光バスで埋まる

外人客で賑う山中湖．別荘やキャンプ場も多い

上野原付近の桂川．このあたりはすでに相模湖のはずれ

郡内地方　「甲州みやげになにもろた郡内しま絹、乾ぶどう」とは江戸初期の童歌。古くから甲斐絹で知られたこの地方は、笹子、三ッ峠の山々にさえぎられ、地勢上も行政上も甲州国中九筋とは分れて発達した。桂川は、その氾濫によって、標式的な河岸段丘をつくりだし、その上に、大月、上野原、谷村(現都留市)などの町と、その周辺の桑園地帯を生みだしたのである。桂川の谷は、はじめV字型に浸蝕されたが、そこへ洪水のたびに富士火山の噴出物が運ばれ、谷底をうずめ、さらに付近の土地の隆起がおこり、水路は先の河床面よりさらに低く削り下げられて、両岸に見事な段丘が残った。上野原付近で神奈川県に入った桂川は、人工の相模湖に流れこむ。桂川に注ぐ谷をわけ登った道志、丹波山などは典型的な山村で薪炭、木材などを京浜へ送り出して昔ながらの暮しをたてている。

桂川，四方津付近．よく発達した河岸段丘

鶴川流域にひらける段々畑．桂川との合流点付近．上野原

梁川付近．河床にひらける水田

都留市街．甲斐絹で知られる旧谷村町が中心

大月市街を縦貫する甲州街道

甲州街道笹子付近．昔の宿場町の面影が残る

笹子トンネル．大月市

大月市は人口約４万，桂川の段丘の上に発達した郡内の中心都市である．市の東部，有名な猿橋のかかる谷は，富士山の溶岩流が，この辺りまで及んできた様子を残している．市の中心街は甲州街道沿いに発達して居り，長距離輸送のトラックが，商店の軒をかすめてはしりぬける．都留市は甲斐絹で名高い旧谷村町を中心に市制を施いた．人口は約３万．この地方一帯は江戸時代，谷村代官が支配していたところである．いまでも絹織物の町工場が多く，付近の農山村から年季奉公のような形で雇い入れられる少女たちが，戦後流行の広幅織機と取り組んでいる．

猿橋．大月市

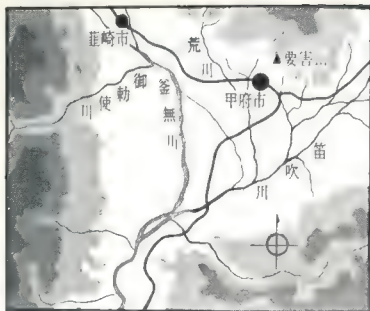
大月市．桂川の段丘上にひらけた郡内の中心都市

大月市付近を流れる桂川．深く段丘をきざみ，渓谷美をなす

八ヶ岳山頂からみた南ア連峰

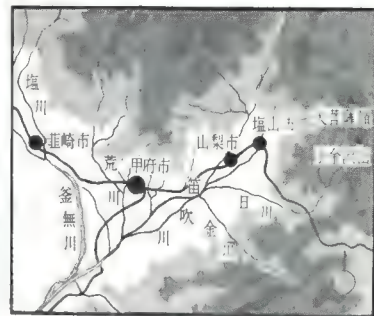
甲府盆地は周囲の山々の間にすり鉢のように沈んでいる．東から南にかけては大菩薩嶺，笹子嶺，御坂山脈が連なり笹子・御坂の両トンネルが郡内・岳麓との通路になっている．北は長野・埼玉両県との境に甲武信ヶ岳，朝日岳，金峰山の巨峰が並び，秩父方面へ通じる雁坂峠，青梅方面へ通じる柳沢峠が北の関門である．

西北の県境には八ヶ岳，そして釜無川上流には釜無山脈が連なって駒ヶ岳，鳳凰山に接し，その南には仙丈ヶ岳，白根三山を主峰とする白根山脈が階段状に連なって赤石山脈と一体となり，南アルプスと称されている．甲府盆地のすぐ北には，茅ヶ岳，帯那山の裾野がなだれこみ，南は御坂山脈の向うに富士がそびえている．

生藤山（東京県境）付近から大菩薩連嶺をみる．手前は権現山

釜無川は八ヶ岳の裾野と南アルプスとの間にはさまれる北巨摩郡一帯の水系を集め，盆地の東部の笛吹川とともに，多量の土砂堆積を行ない，甲府盆地を形成するもととなった．盆地の南端，釜無，笛吹の両河が合流して富士川となるあたりはひろびろとした水田地帯で，市川大門，鰍沢，青柳などの古い町がひらけている．

大菩薩嶺から甲府盆地をみる．[illegible]

甲府市北方の要害山から盆地をみる．手前に甲府市街，遠くに富士川

大菩薩嶺の側から甲府盆地を鳥瞰すると，手前(盆地の東側)には，笛吹川が東北から西南に向って走り，その沿岸に，勝沼，塩山，山梨，石和などの町が点在している．石和付近で笛吹川に入る日川は勝沼付近の扇状地を，同じく支流の金川は御坂の複合扇状地をつくっている．はるか西北からは，釜無川の急流が盆地へ入る．

甲府市湯村北方の高地から盆地をみる．背後は御坂山脈，左手に甲府市街

甲府盆地　フォッサ・マグナと呼ぶ大地溝帯が、東北日本と西南日本を区切っている。新潟県糸魚川（いとい）、長野県松本平から、この甲府盆地、駿河湾をつなぐ線である。この線に沿って富士山その他の噴出があり、低地としてとり残されたのが甲府盆地だとされる。盆地の西方には釜無川（かまなし）、東方には笛吹川（ふえふき）が流れ、その支流ともどもクモの足をひろげたように周囲の山へ多くの谷をきざんでいる。それらが岩をけずり砂を流して氾濫堆積をつづけたのが、いまの盆地で、その堆積は二百—三百米に

甲府盆地勝沼付近、遠くに南ア連峰

釜無川支流の塩川、穴山付近

も及んでいるという。このような地形のために気候は内陸性で、冬は冷えこみ夏は暑く、空気は乾燥し、降水量は少ない。農耕に適した気候条件とはいえないが、周囲を高山にまもられて奈良朝以前から開けていた。中心、甲府市には全県人口の一八%が集中し、郡部では東八代（ひがしやつしろ）郡の人口密度が一番高い。

塩山市の中央通り

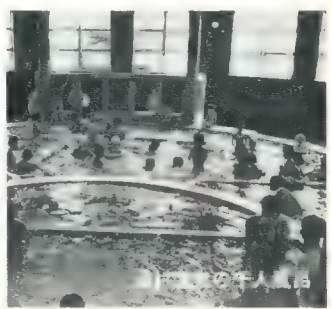
中央線が大日影のトンネルをぬけ，甲府盆地へ入ると一面のブドウ畑が眼前にひらける．その中心が勝沼である．勝沼の北には塩山市がある．笛吹川沿岸の中心で，武田信玄の墓所恵林寺もここにあるが，いまは木材，石材，農産物などの集散地となっており，大菩薩峠の登山口でもある．付近に産出する花崗岩は東京都電の路床につかわれている．町村合併で山梨市となった日下部（くさかべ）も笛吹川に沿う台地に発達した古い町．農・林産物の集散地で活気がある．

勝沼付近　日川（笛吹川支流）の両岸を埋めるブドウ畑

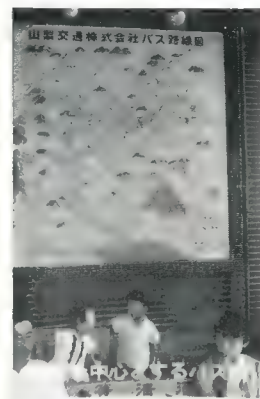
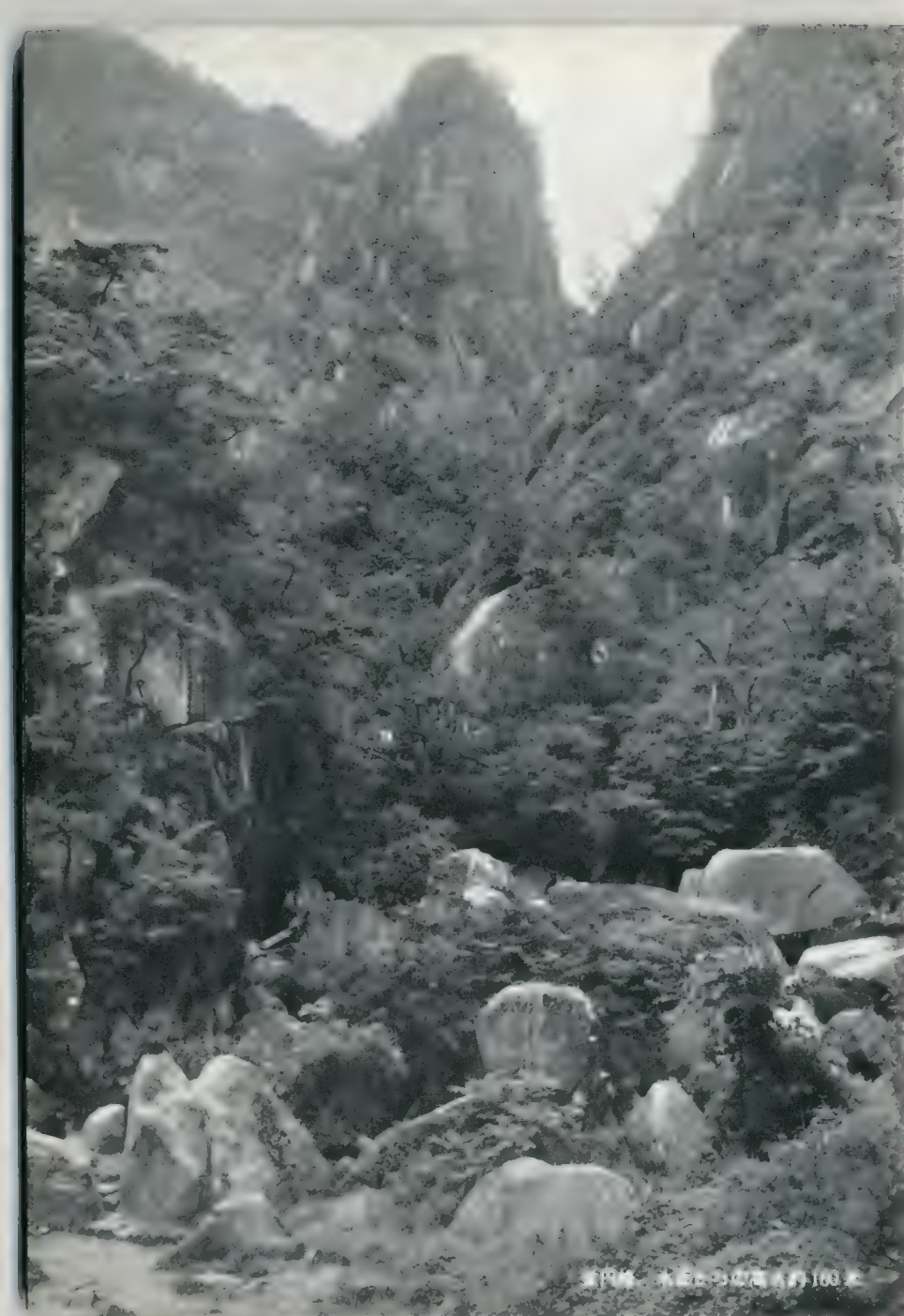
舞鶴城址からみた市街南部。工場地帯になっている

中心街、官庁、公会堂、デパートなどは城址の周辺に集中

愛宕山からみた甲府市街。中央は舞鶴城址

甲府市　人口およそ十五万。信玄の偉業をしのぶ武田神社など、由緒ある神社、仏閣も多く、また、三日町、八日町などの地名は、中世からここに市場がたち、甲府盆地の流通の中心として開けた歴史を物語る。信玄は古府中(こふちゅう)(市の北部)に館をかまえていたが、天然の要害をたのみ、また戦は国外に出て行なうのを常としたから、城らしい城は築かなかった。現在残る舞鶴城址は、徳川時代に勤番の士が詰めた役所の跡である。国中九筋と呼ばれた街道は、すべて甲府を中心に、東は郡内をへて江戸方面へ西は釜無川に沿って信州方面へ、南は富士川の谷や五湖の間をぬって東海道へ、北は笛吹川をさか上って秩父や多摩川上流へのびていた。それが甲州を守る関門でもあり、それが破られた時、武田氏も滅んだのであった。明治維新後は県庁がおかれて政治の中心となり、水晶やブドウで知られ、昇仙峡、南アルプスなどをその圏内に持つ観光都市として発展した。市の西端に近い湯村をはじめ、市街地にも温泉が湧出する。

湯村温泉の千人風呂

旅館が軒を連ねる湯村温泉

[illegible]

甲府から北へ湯村温泉をへて荒川沿いにさかのぼると有名な昇仙峡がある．奇岩怪石と渓流の美しさで知られている．深成岩と呼ばれる地中ふかいところでできた岩盤が，地殻変動と風化によって露出し，特異な風景を呈しているもので，とりわけ美しいのは花崗岩と閃緑岩だ．とくに花崗岩の割け目に木の根が食い入り，さらに亀裂を大きくしているのが目をひく．名物として売られている水晶は，もと金峰山中腹の水晶山や八幡山などから多量に産出した．とくに六角柱状の結晶や，日本式双晶という型のものは世界に数少なかったが，今は鉱床が絶えている．

[illegible]4粁，奇岩怪石が連なる

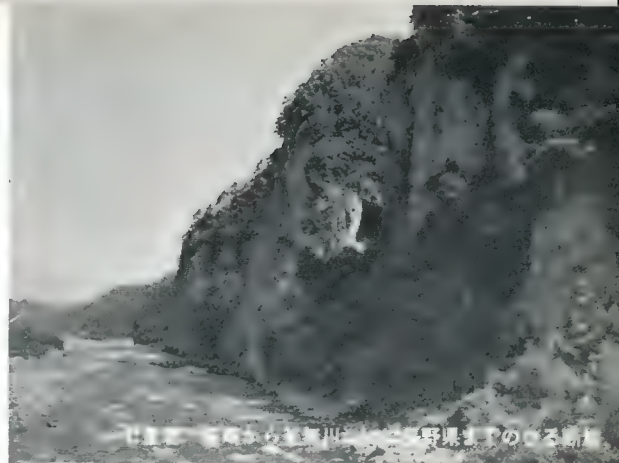
探勝客には家族連れが多い．地下に空洞があるという入口付近

[illegible]

韮崎駅付近から八ヶ岳を望む

七里岩の上から韮崎市街を望む．遠くに塩川(釜無川支流)

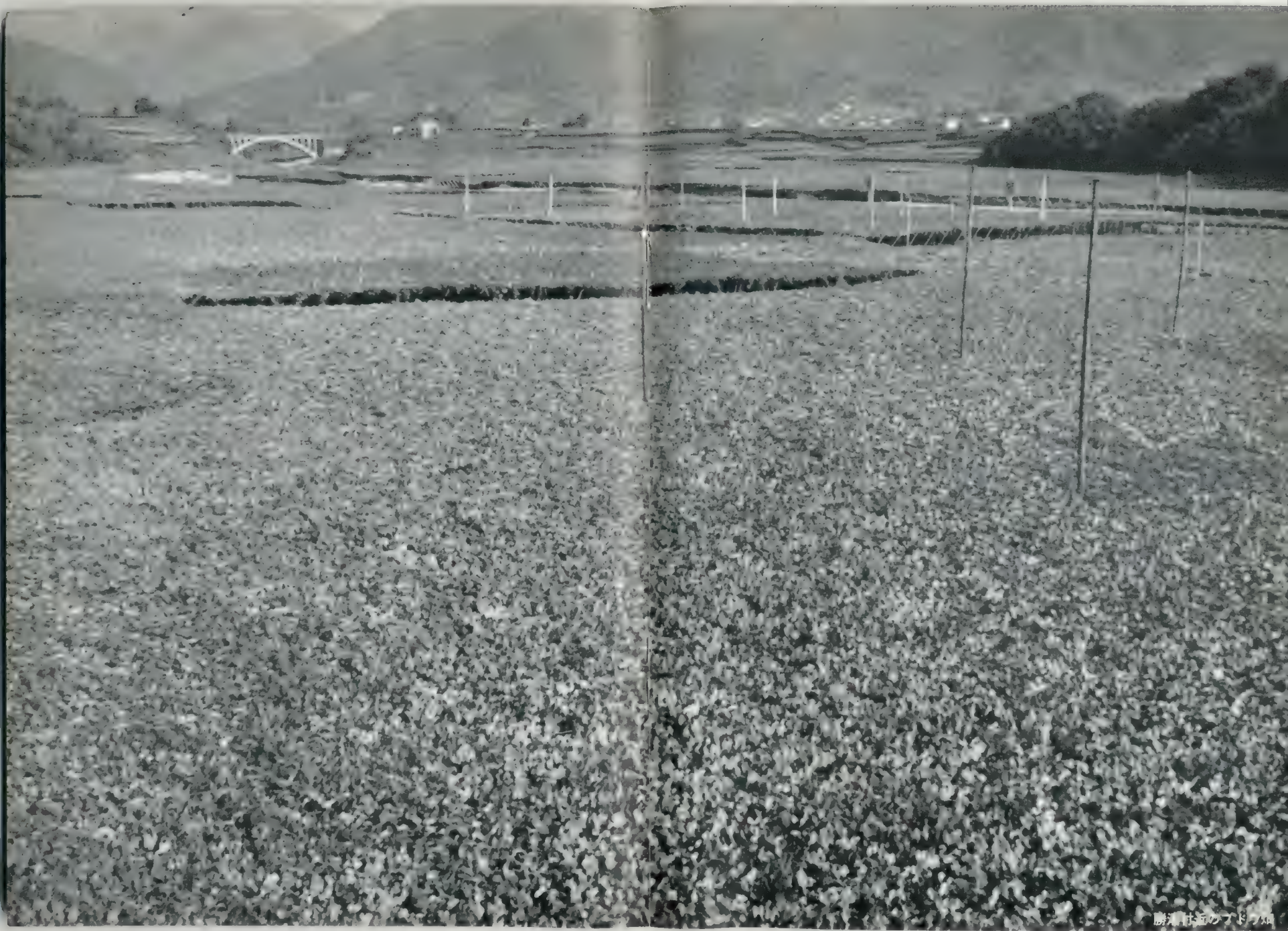
韮崎の製材工場

釜無川流域の中心都市，韮崎市から西北県境まで，七里岩とよばれるみごとな断崖がある．八ヶ岳の噴火による火山泥流がかたまって，その岩壁が露出したものである．あたりに小さい円丘が多いのは，噴火のさいの泥流に多量のガスがふくまれ，それが噴出した跡だといわれる．釜無川，塩川はまた古来，荒れ川として有名で，天正11年の釜無川の氾濫の際は甲州一円を泥海と化し，ついに信玄をして信玄堤構築の決意をさせた．信玄堤は竜王の付近に残り，全長1800米．いまも洪水防止に役立っている．韮崎市，は北巨摩郡の中心都市で人口約3万．製材工場が多い．

[illegible]

[illegible]野県境までのびる断[illegible]

[illegible]用水が[illegible]

七里岩の[illegible]

勝沼付近のブドウ畑

開拓村の小学校．清里

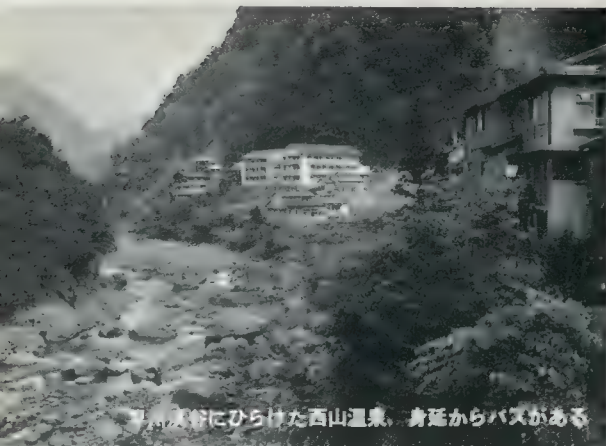
アメリカ人経営の農業センター．清泉寮．夏はハイカーの宿

オハイオ大学高冷地農業研究所．サイロもある．清里

八ヶ岳の麓をめぐり，長野県に入って松原湖，佐久平をへて小諸へぬける小海線は，小淵沢で中央線と分れる．沿線は，春から初夏にかけて，レンゲ・ツツジ・アヤメ・シャクナゲなどが咲き乱れ，いかにも高原らしい風景だ．海抜1158米の甲斐大泉駅付近からは，はるかに甲府盆地のひろがる彼方に富士の秀嶺が展望される．さらに北へ進むと川俣川の絶壁をこえて，念場原の高原が開ける．高原の入口にあたる清里には，戦後多くの開拓地がひらかれ，とくに寒冷な気候の高地に適する作物の研究をするため，アメリカの大学の農業研究機関が設けられている．

米人の農場で働く人

長坂付近から八ヶ岳をみる．山麓でもこの付近では水田も多い

大泉付近．八ヶ岳山麓ではトウモロコシが主要作物

早川渓谷にひらけた西山温泉，身延からバスがある

[illegible]駒ヶ岳は古くからの信仰の山

[illegible]は遭難者も多い，奈良田登山口

県営西山発電所のダム

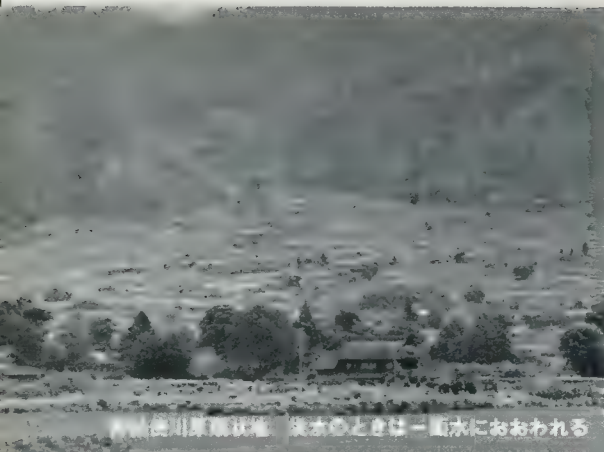
南アルプスのおりかさなる袖の中に，一筋の谷が南北に走っている．仙丈ヶ岳の近くに水源をもつ野呂川の谷である．その野呂川は下って早川となり，やがて富士川へそそぐ．南アルプスの雄大な展望は，甲府盆地から御勅使川（みだい）をさかのぼり，夜叉神のトンネルをくぐりぬけたところにひろがりだす．南アルプスの高峰，日本では富士山に次いで高い北岳(3192米)は，夜叉神トンネルの西北にあたる．西山温泉の奥，早川町奈良田の部落は，県内でも典型的な僻村だったが，早川・野呂川の電源開発によって人工湖が生れ，訪れる観光客も次第に多くなりつつある．

夜叉神峠の村道

夜叉神峠から南アルプス連峰をみる

早川の渓谷，秘境地帯として[illegible]される

早川は身延の北で富士川に注ぐ　広い砂州の発達した合流点付近

富士川　南アルプス北部に水源を持つ釜無川と秩父山間部から流れ出る笛吹川は、多くの支流をあつめながら盆地を流れ下り、盆地の南端で合流して富士川となる。富士川水系は古来急流をもって知られた。水源地を標高二千米にも及ぶ山間部に持ち、しかも短い距離を走りぬけて平地へおどり出るからである。急流がけずりとって流す砂礫の量もおびただしく、平地へ出るまぎわには見事な扇状地をつくり、そこにははやくから集落が生れた。御勅使川複合扇状地の上に原七郷とよぶ集落が

御勅使川扇状地　洪水のときは一面水におおわれる

甲府盆地の中心部　一面に水田のひろがる沖積平野

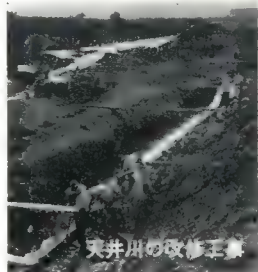
笛吹(手前)，釜無両川は市川大門付近で合流，富士川となる

発達したのなどその一例である。釜無、笛吹の水を併せた富士川は、大きく蛇行しながら鰍沢(かじかざわ)付近で再び山間部に入り、静岡県境へ向う。流域は林業地帯だが、身延(みのぶ)、下部(しもべ)など古くから開けた特殊な町がある。富士川の氾濫は戦後になっても幾度かの大被害を招き、信玄以来のなやみをくりかえしている。

盆地から渓谷に流れ込んだ富士川．鰍沢付近で一旦せまくなる

[illegible]付近，川幅はかなりひろい

[illegible]

富士川改修工事は，大正9年に十ヵ年計画でスタートしたが，困難が多く，23年をへて，昭和17年にやっと完成した．笛吹川の合流点が本流と芦川にはさまれていて，水はけがわるいので，導水して高田で合流させたのである．しかし富士川は鰍沢以南で再び山間部へはいり，流れが細くなるので，なお甲府盆地の洪水の危険は去らず，さらに徹底した治水工事が必要となっている．盆地南部に多い天井川の改修も進んでいる．天井川は流出土砂礫の堆積によって河床が地表面より高くなったもので，ところによっては道路や鉄道線路などが，川の下をくぐっている．

天井川の改修工事

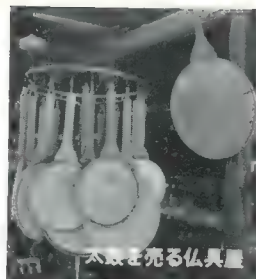
市川大門．和紙製造で知られる

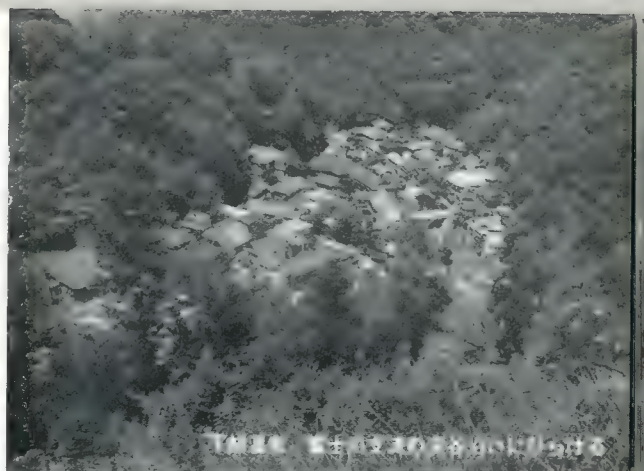
[illegible]

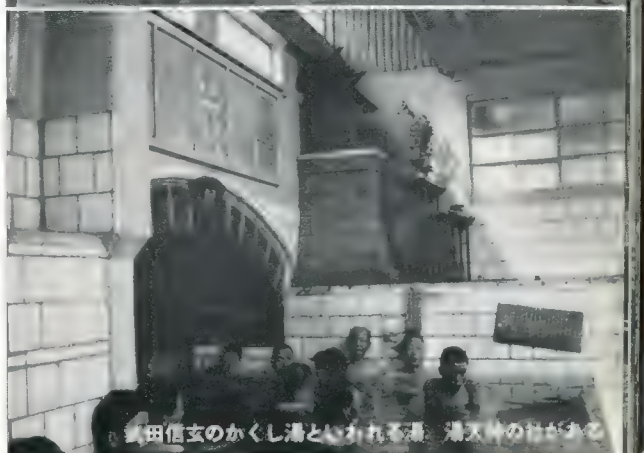
[illegible]かつては富士川舟運の起点として栄えた

土産物屋の並ぶ身延[illegible]門前．背後が身延の山

白衣の[illegible]．子供づれの人も多い

太鼓を売る仏具屋

富士川の川幅は，身延付近でやや拡がる．身延の門前町と下部(しもべ)温泉郷は，南アルプスと御坂山脈にはさまれたこの山峡部に開けている．日蓮上人は身延山(1146米)の奥の院に９年間幽棲して国土安穏を念じたといわれる．上人は死後遺言によりここに葬られ，日蓮宗本山となった．下部温泉は景行天皇の昔，国造塩海宿禰が発見し，塩海の湯と名づけたといわれ，信玄公の隠し湯とも伝えられる．硫黄・鉄分を含んだ湯が湧くが，ぬるいために加熱している．身延参りの客は年50万人に及び，３億円以上の金を使ってゆくというから県下でも有力な観光地といえよう．

下部温泉．[illegible]

身延帰りの客．長期滞在の湯治客が多い．下部温泉

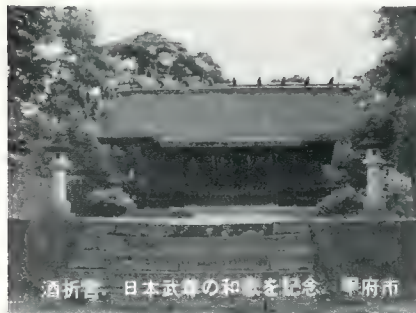
武田信玄のかくし湯といわれる[illegible]

富士川中流には発電所の取水口が多い．南部付近

静岡県境の道標

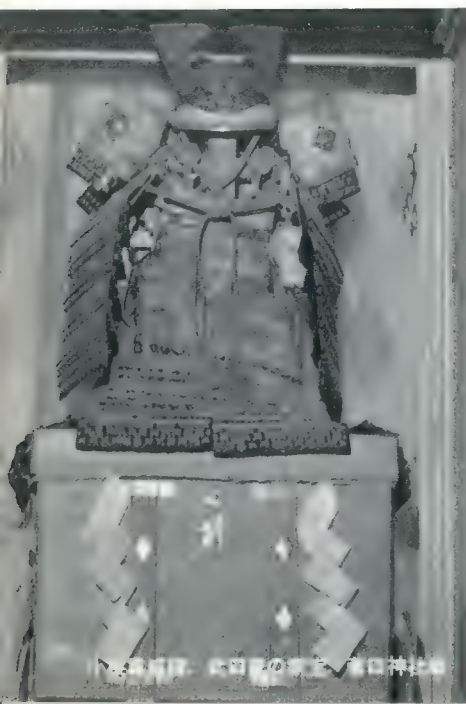
信玄治下の昔から，甲州国中九筋と呼ばれた道の一つ，河内路は，甲府，市川大門，身延，南部と富士川左岸をぬって興津(おきつ)に出て，駿河と甲斐をつないでいた．富士川を下れば，その急流は鰍沢—岩渕(東海道)の72粁を6時間で運んだという．徳川時代には鰍沢が富士川をさかのぼる舟の終点であった．身延以南の町は，どこも木材の集散地で製材所が多い．静岡県境に近く，山峡を下る富士川の水を利用して，静岡県の工場が発電用の取水口をもうけている．

山梨県の略史

古代から戦国まで　甲斐の国名は古事記・万葉集にもみえ、もと峡の意から出たのであろうという。最初にこの地方に移住して来た人々は、まず山腹地帯に部落をつくり、しだいに川ぞいに丘陵へ下り、やがて米つくりのはじまる頃から低地帯に住みついたらしい。竪穴住居のあとは、北巨摩郡の藤井、北都留郡の桐原などに発見されている。古代弥生式文化の跡は、曽根丘陵の西部に当る豊富や、甲府市の住吉にみられ、住吉の遺跡には炭化した米やワラもみいだされた。下って古墳文化の遺跡は笛吹川左岸の銚子塚、山梨市の日下部にあるが、日下部の古墳は八世紀（奈良朝末）と推定される。景行天皇の代に、塩海宿禰が国造になったと国造本紀にみえ、日下部には日下部宿禰がいたというから、その子孫のものであろう。日本武尊が東征の帰路この辺を過ぎ、「にいばりつくばをすぎて幾夜か寝つる」と歌われ、火焚きの老人が「かかなべて宵は九夜、日には十日を」

甲斐国分寺跡、石和

と答えた（和歌のはじまり）のもこの辺りだという。諸所の裾野に牧がつくられ、朝廷に馬を献じた歴史もある。やがて国司が下るようになると、東山梨郡岡部に国府がおかれた。平安時代武士の勃興とともに、源頼光の弟頼信が国司となり、その子孫が甲斐源氏と称して東国の雄を誇った。新羅三郎義光や、武田氏の祖、源信義などはこの流れである。

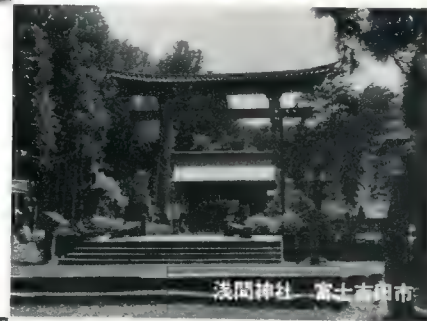
酒折宮、日本武尊の和歌を記念、甲府市

吾妻鏡などによってみても、源頼朝が石橋山に兵をあげた当時、甲斐源氏が味方につくかどうかは、頼朝が東国を攻略できるかどうかの分れ道でさえあった。甲斐源氏の武田信義、安田義定、加賀美遠光らは、時代のおもむくところをよく見とおし、頼朝の乞いにこたえて平家と戦い、頼朝の鎌倉開府後は甲斐守護職をはじめ、各国の守護、地頭を一族で占めるようになった。こうして、甲斐源氏は、武田信玄にいたるまでの五百余年、連綿としてこの国をおさえたのである。なおこの地方には、荘園時代、御牧、御厨といって特殊な荘園があった。御牧はいわば国立の飼育場で国司が監督し、御厨は伊勢、加茂等の神領でそれぞれの社司が管理した。

東光寺薬師堂、室町時代、甲府市

武田氏時代　武田信玄は名を晴信といい、機山と号した。信虎の子として大永元年石水寺城に生れたが、少年時代から武勇をもって知られ、二十一歳で家を継いだ頃は、甲州一円を手におさめ、進んで付近の国々を侵略する力を蓄えていた。諏訪氏を亡して、西は伊那地方まで領有し、東・南は北条・今川氏と勢力の均衡を保ち、北は上州・信州にまで勢力をはり、上杉謙信と対抗した。川中島の戦は、わが国最初の火器をもつ大軍団同士の戦争として戦史に一期を画した。信玄は上杉氏との戦いのうちに天正元年五十三歳で信州駒場に陣没したが、彼の戦略家としての高名のために、内政家としての手腕が忘れられてはなるまい。「信玄家法」として残る五十七ヵ条は、いわば信玄のつくった法律であり、地頭の権限、武士の戒律、百姓の保護策などをきめてある。民政の上では、自分の下に両職をおき、板垣・甘利などの名臣をこれに任じて家老のような権限をもたせ、その下に四奉行、公事奉行、勘定奉行、御蔵前衆などをおいた。御蔵前衆とは納税をつかさどる役人だが、武田氏領内での

税法は他国のように一律に米納でなく金納を許していた。甲斐が山国で米収が少なく、貧農が多かったためである。その法は大小切の法といい、納税の三分の一は小切といって米納、他の三分の二を大切といい、そのうち三分の一は金納であったが、金額が時の米相場で増減するので、他国の百姓より楽だとされていた。信玄は治水にも心を用い、釜無川に信玄堤をつくり、防水林をもうけるなど今に残る大工事を行いその結果、新しい部落もふえた。黒川・雨畑・芳山などの金山をひらき金山衆をおいたのも信玄である。この信玄の政治力も後をついだ勝頼には維持できず、辺境に織田・徳川氏の圧力がかかってくると本国もゆらぎだした。長篠の戦に織田・徳川勢に破れた勝頼は岩殿山城に向って敗走する途中、小山田信茂にそむかれて、天正十年三月、天目山に自殺、武田氏は亡びた。信玄の菩提寺恵林寺も炎上し、快川和尚以下「心頭滅却すれば火もまた涼し」の一喝を残して焼死した。

恵林寺庭園　夢窓国師の築造

武田氏以後　武田氏を滅して甲斐に入国した織田信長の城代河尻鎮吉は、信玄の定めた税法を無視するなど虐政が多かったので、一揆がおこって殺された。代って甲斐を領有した徳川家康は、武田の旧臣を手なづけ、勝頼の霊をとむらうため天目山下の田野へ景徳院を建てたりもした。次いで浅野長政が入国、検地を行ない、ブドウなど甲斐の八珍果の栽培を奨励した。徳川幕府が封建制を完成すると家康の子忠長が入国したが、その後柳沢氏の領国となり、享保九年以後は幕府直轄地(天領)となった。ひとつには、金山があるので、幕府としてはこの国を直接支配したかったのである。以後甲府に勤番の士がおかれ、旗本の中から交代してここにつめ、石和、市川大門にも代官所がおかれた。郡内は武田氏時代から、国中と分けられ小山田氏の領であったが、徳川時代には谷村代官がおかれた。大砲つくりで有名な江川太郎左衛門も谷村代官をつとめ、甲斐絹の生産向上に尽力した。徳川三百年の平和は、全国の街道筋を安全なものにしたが、山梨県下の有力な社寺への参詣者も多くなって来た。日蓮宗の本山、身延山(みのぶさん)久遠寺(くおんじ)には白衣の信徒が全国から集るようになった。富士登山の道者も、足利時代からようやく多くなって来たが、元禄の頃に多くの宗派に分れ、富士八百八講と呼ばれるほど盛大になった。維新のさいは、中仙道を下った板垣退助らが甲府を占領し、勤番の士たちもおとなしく城を渡したが、江戸から救援に来た近藤勇らの一隊は勝沼付近で板垣らの官軍と戦い敗走した。こうして世は明治となる。明治五年、信玄以来の大小切の税法が改められ、地租改正が断行されると、万カ、栗原筋の九十七ヵ村、六千人が県庁へ押かけ「大小切騒動」をおこし、鎮圧された。しかし、この反抗は明治十五年前後の自由民権運動へ尾をひいた。一方、投機上手で知られた商人たちは資本主義時代を迎えて京浜方面に進出し、根津、若尾氏などをはじめ甲州財閥を形成した。

[illegible]、甲府市

久遠寺の御真骨堂、身延

浅間神社、富士吉田市

小御岳神社、富士吉田市

根津嘉一郎の生家、[illegible]

[illegible]トンネルの[illegible]

日下部警察署、明治時代の[illegible]

[illegible]

ブドウ畑は水はけの良い盆地北部の台地上に集中．勝沼

ブドウとその加工　「勝沼や馬子もぶどうを喰いながら」と芭蕉が吟じた元禄時代には、甲州名物ブドウも、まだ盆地の一角に根を下して間もない「珍果」であった。豊臣時代の領主浅野長政がブドウ栽培を奨励する以前から、自生のブドウがあるにはあったが、大量に商品化されたのは、支那種が移植されてからしい。

郡市別ブドウ生産量
昭和30年
韮崎市　北巨摩郡
塩山市　山梨市・東山梨郡
甲府市・中巨摩郡
東八代郡
富士吉田市　南都留郡
西八代郡
南巨摩郡
総数
460万貫
100万貫

元和年間、甲斐徳本が棚作り法を工夫して栽培に尽したというから、芭蕉もこの棚作りの下に立ったのであろう。明治維新頃ブドウ畑は三百町歩に及んだが、封建制のもとでは全国的な販路は望めなかった。明治八年、内務省勧農局が近代的栽培を奨励し西欧種を入れたのが一画期となった。現在も勝沼を中心とする東山梨郡が生産の中心地帯で、県下の年産約四百六十万貫(昭和三十年)のうち、二百五十万貫以上がこの郡で占められ、中巨摩郡、東八代郡がこれに次ぐ。ブドウの栽培には、水はけと日あたりのよい扇状地が適しているので、盆地の中心の低地帯では大規模なブドウ園の経営はみられない。

軒までブドウ棚で埋まる農家．勝沼

土産物用に箱につめる

明治10年代に，西欧から持ち帰られたブドウは，ほぼ15種にのぼった．しかしこれと同時におそろしい白渋病菌も持ち込まれ，そのため300町歩をこえたブドウ畑が，明治34年には僅か64町歩に減った．県当局や先覚者たちは，西ヵ原農事試験場に依頼して対策を講じ，ようやく石灰ボルドー液の撒布を普及して，蔓延を防いだ．栽培同業組合ができたのもこの時である．その後またフィロキセラの害で枯死するブドウが多かったが，これもどうにか克服し，昭和に入ると千町歩をこす大栽培地帯となった．品種の面からみると，デラウェアとマスカットが大部分だ．

ブドウ箱を作る家．勝沼

[illegible] 組合でまとめて出す．勝沼

地下の貯蔵場．甲府の醸造工場

樽に入れて地下に寝かす．甲府の醸造工場

瀬戸引きの醸造槽

西欧のブドウ種が入ると同時に，明治10年，葡萄酒醸造会社も創立された．その後アメリカ系葡萄酒醸造法が輸入され，外人技師も来て，大正11年には5千石以上の生産をみた．明治12年，はじめて50石の生産を得た時からみれば思いも及ばぬ飛躍であった．戦争中の統制や砂糖不足で沈滞した醸造業も，戦後の洋酒ブームで復活，年数万石を生産している．県には醸造研究所があって，山梨大学と協力しつつ指導にあたっている．

山梨大学醸造研究所．業者への技術指導も[illegible]

「月の[illegible]市

ブドウ酒の仕込み．十月中旬頃が最盛期．甲府市の醸造工場

…ふえた，飯野の桃罐詰工場

食品加工工場の分布

北巨摩郡　東山梨郡　北都留郡　韮崎市　塩山市　山梨市　甲府市　大月市　中巨摩郡　東八代郡　都留市　南都留郡　南巨摩郡　西八代郡　富士吉田市　30　50

食品加工　甲斐絹以外にみるべき工業のおこらなかったこの県では、食品加工は昔から大きな比重を占めていた。甲斐源氏はなやかなりし源平時代から、枯露柿は名物であった。いまも原料になる柿を他県から買入れて、年間十万貫程度を生産している。冬期空気が乾燥するのが利点になっている。このような古くからの伝統の上に立って、近代になって発展したのが果物を中心とする罐詰工業で、戦後いちはやく生糸に見切りをつけて桑畑を果樹園に切りかえた甲府市周辺の農村などすでに現地加工をしているところもあるが、主力はやはり甲府市内に集中している。製粉業も、養蚕業の衰退につれて桑園の多くが麦畑に変ったので重要性を増して来ているが、まだ全県統計の中に大きいパーセンテージを占めるほどの生産量をあげていない。食品加工業の工場は全県に五百四十ほど存在するが、その三分の一内外が甲府市に集中しており、農産物がさかんに生産地で加工されるようになるのは、これからのことであろう。

量目を測って罐に入れる，飯野

醤油工場，甲府市

全県の製造業事業所約８千のうち，200人以上の従業員を使っているところは10ほどしかない．しかもそのうちの大部分は紡織関係で，残りも軽工業である．そうした工業不振の中で，食品加工はそうとうのウェイトをもつ．しかし，いずれも規模は小さく，従業員２～９人の工場が約500，同じく10～49人の工場が約100．50人をこえる工場は十指で数えるほどだ．大部分は個人経営で，工業とはいっても農家で行う自家製造と大差ないものだ．一面では郷土産業らしい足が地についた強みともいえるが，同種の巨大資本が県外から進出してくると対抗力に乏しい．

砂糖菓子製造，甲府市

製粉工場，甲府市

ビスケット工場，甲府市

キャラメル工場，甲府市

甲府の酪乳工場

農業　山にかこまれたこの県では、総面積の約一割(約四万五千町歩)しか耕されていない。しかも水田はその三分の一にすぎず、農業だけで生活のたつ農家は、甲府盆地と八ガ岳山麓以外には少ない。古くから養蚕県として知られ、桑園の反当り収繭量が全国一であると誇ったのも、実は農業の生産性の低さの唯一の救いを、養蚕、絹織物に賭けていたからに他ならない。ところが、いま絹織物は需要が少なく、製糸も化繊に圧倒され、農家は養蚕にたよることができなくなった。ここに戦後の県農業の一大転換が生まれた。裾野、扇状地、河岸台地に適した果樹、ホップ、高原野菜、花卉など適地適作、多角経営が試みられ、一方農業の機械化による生産性向上が叫ばれている。酪農の奨励も行なわれ、搾乳量も昭和三十年には二十六年ころに比べて倍以上にふえている。商品性の高い果樹や園芸作物、それに大企業が市場を支配している牛乳が重要な地位を占めてくるにつれて、農家の側の販売組織の強化も必要になろう。

太陽熱で温室用の[illegible]

[illegible]を見る．富士吉田

マユの集荷．甲西

[illegible]り選別．甲府市[illegible]

[illegible]の[illegible]つくり．甲府市

集乳場．甲府市郊外

甲府市付近の農村といえば，大和平野にみられるような草屋根の切破風造りが多く，養蚕のために，通風採光をよくする突出二階をもつ家も目についたものであった．その集落の周囲は一面の桑園，というのが甲州の村の姿であった．いま，桑園は畑となって豆トラクターがうなりをあげており，傾斜地にはビニール張りの温室がふえた．全県で6千5百頭の乳牛が飼われ，毎朝集乳のトラックが往き来する．漬物の材料として京浜に送られたキャベツや白菜の畑が洋菜や果物の生産地帯に変りつつある姿もみられる．こうして農地改革後の農業は近代化の道を歩んでいる．

[illegible]

…伝統を持つ甲斐絹も大工場の進出で押され気味．大月の織物工場

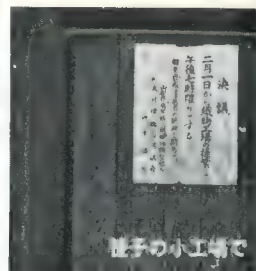
甲斐絹問屋．大月市

養蚕・織物　古代から養蚕・織物の適地とされたこの県は、明治時代にいたって飛躍的な発展をとげ、明治末年には産繭量百七十万貫、大正の末には三百万貫に及んだ。この勢いは昭和初年の不況時にも停滞せず、産業合理化で不況を切りぬけ昭和十五年前後には産繭量六百万貫に近づいた。その後、戦争の傷手、食糧増産のための桑園の掘取りなどによって、戦後は明治中期以前の姿に帰り、昭和三十年になって産繭量二百万貫にまで回復した。絹・人絹織物も甲斐絹の伝統にのって、戦前一万五千台をこえる機械を有する勢いだったが、半分以上は戦争中にスクラップとして供出され、さらに戦後は残存の機械も広幅織機に転換せねばならなくなった。また戦前、内地向六割、満州・朝鮮・中国向四割といわれた販路も大きく変った。こうして、いま郡内機業はあわただしい再建期にある。一方、甲府市付近では、戦争中の疎開工場が軍の放出材料利用を手始めに、メリヤス類の生産をはじめ、郡内機業に次ぐ地位を築いた。

織機の部品を扱う金物屋．都留市

規模の大きな甲斐絹工場．大月市

…若い女工さんが多い．甲府市

甲斐絹工場の下請けの染色工場もある．都留市

…の小工場で

県下の紡織業事業所の数は５千５百にのぼる．しかしその中で法人になっているのは，わずか２百余．大部分が個人営業で，その従業員は，1～9人に止まり，50人以上の工場となると，指折り数えるくらいしかない．したがって，資本も小さく，投機性もつよく，不景気の波が押しよせれば，操短・閉店といった冬眠状態に入る．その判断をあやまれば倒産するほかない．紡織業全体で約２万人の従業員中，常雇いは半数の１万にすぎず，労働組合に属しているのはそのまた３分の１に満たない．伝統の再建は，技術改良だけでなく，経営全体のあり方にかかっている．

水晶原石の産出は絶えたが加工はいぜん盛ん．ネックレースの家内工場．甲府市

人形など，置物も作る．甲府市

その他の工業　近代機械工業の未発達な県内各地では、伝統に根ざした中小工業が、名産の看板をかかげて名声を博している。天保年間以来の水晶研磨工業はその筆頭で、大正時代にモーターで研磨するようになって、手細工から飛躍をとげ、ブラジルから原石を輸入して、海外市場に進出するようになった。戦争中は奢侈品禁止で望遠鏡レンズや絶縁物製造に転向したが、戦後はアメリカ兵の土産物でまた盛況を呈し、装身具やシャンデリアの輸出に大わらわとなった。甲府市の印伝も甲州名物のひとつ。羊や鹿のナメシ革に、うるしを点々とぬって、袋物などをつくる細工であるが、いまも家内工業で生産されている。市川大門を中心とする手すき和紙工業も伝統は古く、市川紙の名は千年以上前からみえている。明治時代、製紙改良社がつくられ、土佐紙の技術をとり入れ、障子紙で有名になった。いまは煮熟、裁断等の設備の共同化などによってコストを下げ、二百戸の手すき業者が伝統を保とうと努力を続けている。

人造宝石の製造．山梨大学

甲府市の印伝工場．女工さんも多い

ブラジルから来た原石

市川大門の製紙．手すき和紙にすぐれた技術を伝える

昭和25年，輸出額1億円を突破して，戦前以上の活気を呈した水晶研磨も，国際競争に耐えてゆくのにはなみなみならぬ努力が必要である．県は26年，研磨工業指導所をつくり，人造宝石などの技術指導や資材あっせんに乗り出した．アメリカ市場での強敵は，チェコの硝子装身具だったが，戦後はアメリカの共産圏に対する貿易制限のおかげで競争が楽になった．賃金の安い少年工や婦人が多く使われているが，これは印伝や製紙についても同様である．硯や碁石は南アルプス山間の硯島から出る水成岩を材料として，鰍沢で加工する．

鰍沢のすずり工場．実用品だけでなく美術品もつくる

皮なめし．甲府の印伝工場

山梨県の工業発展には中央線の輸送力強化が急務だ．しかし浅川～甲府間の複線化は，トンネルと切割がつづくので困難が予想される

岩波写真文庫目録

新刊

253 秋田県　254 苫小牧　255 山梨県

*印は品切でございます

各種農産物の作付面積

作付延面積 約54千町

米　麦　豆・雑穀　蔬菜　果樹　桑　特用作物　緑肥用作物　飼料

地域的にみた山梨県の農林業

単位1千町　単位1万石

田　桑園　果樹園　普通畑　木材蓄積石数

韮崎市・北巨摩郡　塩山市・山梨市・東山梨郡　甲府市　中巨摩郡　東八代郡　大月市・北都留郡　都留市・南都留郡　西八代郡　富士吉田市　南巨摩郡

山梨県の養蚕業の変遷

千町　百万貫　桑畑面積　繭生産額

明治30年　35　40　大正元　5　10　14　昭和元　5　10　12　15　20　21　22　23　24　25

日露戦争　第一次世界大戦　世界恐慌　太平洋戦争

ブドウ畑．塩山市

¥ 100